

令和6年 結核登録者の状況

1 新登録患者数及び罹患率

(表1)新登録患者数(人)及び罹患率(人口10万対)

区 分	R2	R3	R4	R5	R6
新登録結核患者数	24	18	17	24	21
罹患率	7.2	5.5	5.2	7.8	6.6
喀痰塗沫陽性肺結核患者数	12	8	7	8	4
喀痰塗沫陽性肺結核罹患率	3.6	2.4	2.2	2.5	1.3
潜在性結核感染症患者数(初感染結核)	6	8	12	10	19



(表1より) 令和6年新登録結核患者数は21人、潜在性結核感染症患者数は19人であった。

(表2)男女別結核患者数(人)

区 分	性 別	R2	R3	R4	R5	R6
新登録結核患者	男 性	13	10	10	10	8
	女 性	11	8	7	14	13
喀痰塗沫陽性結核患者	男 性	8	4	4	3	2
	女 性	4	4	3	5	2
潜在性結核感染症	男 性	3	3	3	5	5
	女 性	3	5	9	5	14



(表2より) 令和6年新登録結核患者性別比率は男性8人(38.1%)、女性13人(61.9%)と女性が多かった。

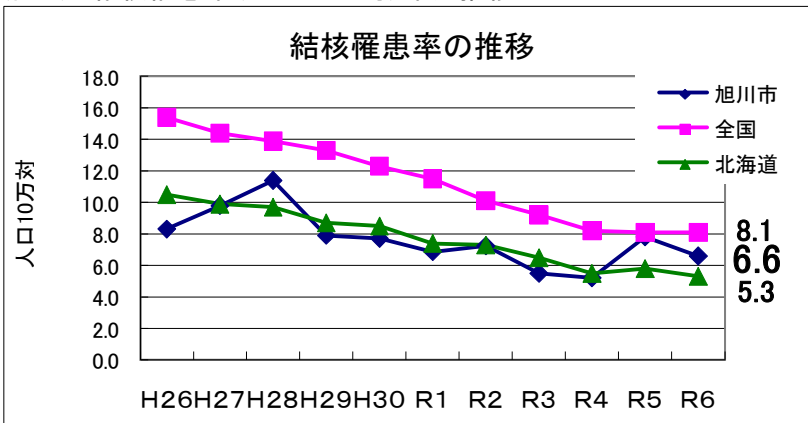
(表3)年齢別結核患者数(人)及び罹患率(人口10万対)

年齢区分	患者種別		新登録結核患者		喀痰塗沫陽性結核患者		潜在性結核感染症患者	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
9歳以下	-	-	-	-	-	-	1	5.2
10歳代	-	-	-	-	-	-	1	4.0
20歳代	3	11.9	-	-	-	-	1	4.0
30歳代	1	3.5	-	-	-	-	3	10.5
40歳代	-	-	-	-	-	-	1	2.4
50歳代	1	2.2	-	-	-	-	2	4.4
60歳代	-	-	-	-	-	-	3	7.1
70歳代	4	7.8	-	-	-	-	4	7.8
80歳以上	12	30.3	4	10.1	-	-	3	7.6
計	21	6.6	4	1.3	-	-	19	6.0



(表3より) 新登録結核患者の年齢は、80歳以上が最も多く、年齢別罹患率においても80歳以上が最も高い。例年に比べ、20～30歳代の患者が4人と多く、そのうち2人が外国出生者であった。年齢別割合では、70歳以上が全体の76.1%で、喀痰塗沫陽性結核患者は全て80歳以上であった。

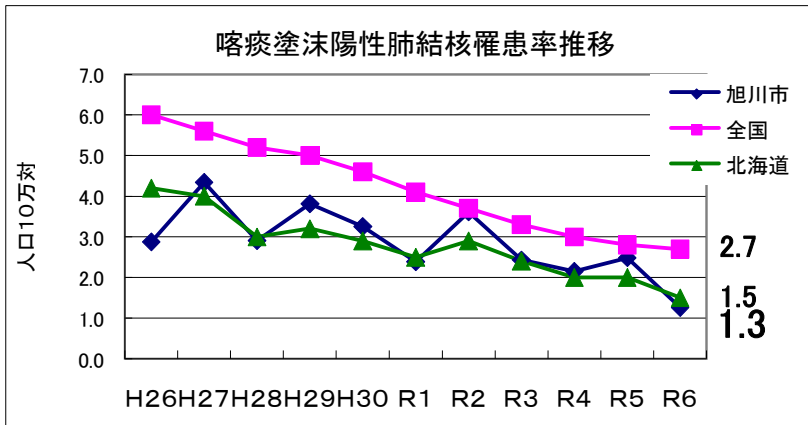
(図1) 結核罹患率(人口10万対)年次推移



(図1より)

令和5年は7.8と全国と同水準であったが、令和6年は6.6と前年に比べ低下した。しかし、北海道と比較すると、令和5年から2年連続で北海道を上回っており、北海道だけで見ると年々減少傾向を示している。

(図2) 喀痰塗抹陽性肺結核罹患率(人口10万対)年次推移



(図2より)
 喀痰塗抹陽性肺結核罹患率は1.3で、過去最も低い数値となった。全国的に年々減少傾向を示しているが、旭川市は全国、全道よりも低い値であった。

※喀痰塗抹陽性肺結核とは、患者の痰から多量の結核菌が排出されている結核のことであり、周囲の人への感染源となりやすい。

2 結核登録者数及び有病率

(表4) 結核登録者数(人)及び有病率(人口10万対)

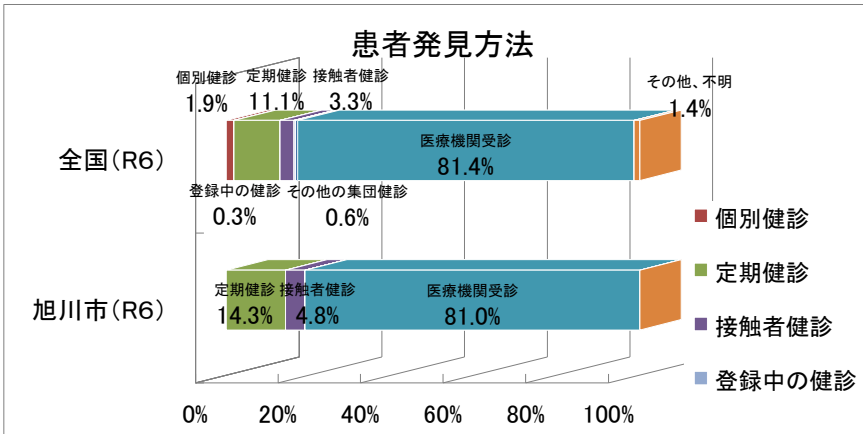
区分	R2	R3	R4	R5	R6
結核登録者数	58	47	40	54	43
活動性全結核患者数	17	11	9	16	16
旭川市の有病率	5.1	3.0	2.8	5.0	5.0
全国の有病率	6.8	6.2	5.4	5.5	5.4



(表4より) 年末総登録者数は43人と、令和5年より11人減少した。うち、活動性全結核患者数は16人であり、令和5年と同水準で経過している。有病率は全国に比べやや低い値で経過している。

3 新登録患者結核病類

(図3) 患者発見方法



(図3より)
 新登録結核患者21人の発見方法は、例年90%以上が医療機関受診であったが、令和6年は全国と同じ割合に低下し、定期健診での発見割合が増加した。これは、20~30歳代の患者が例年に比べ多いことが影響しているものと思われる。

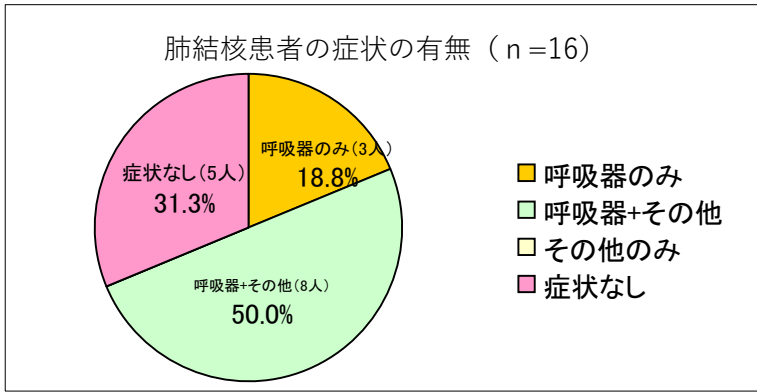
(表5) 結核患者分類 ※新登録患者21人。うち重複診断6名。

病名	人数(人)	割合
肺結核	16	59.3%
粟粒結核	1	3.7%
肺外結核	4	14.8%
結核性胸膜炎	4	14.8%
結核性心膜炎	1	3.7%
他のリンパ節結核	4	14.8%
皮膚結核	1	3.7%
合計(延)	27	



(表5より)
 重複診断を含む新登録結核患者延べ27人の結核病類においては、肺結核16人(59.3%)であった。肺外結核は結核性胸膜炎及び他のリンパ節結核がそれぞれ4人(14.8%)、粟粒結核、結核性心膜炎、皮膚結核がそれぞれ1人(3.7%)であった。

(図4) 新登録肺結核患者の症状の有無



(図4より)

新登録肺結核患者16人うち11人(68.8%)が有症状であり、その全てで呼吸器症状を有している。

4 新登録有症状肺結核患者の受診・診断・発見の遅れ(表6)

(人)

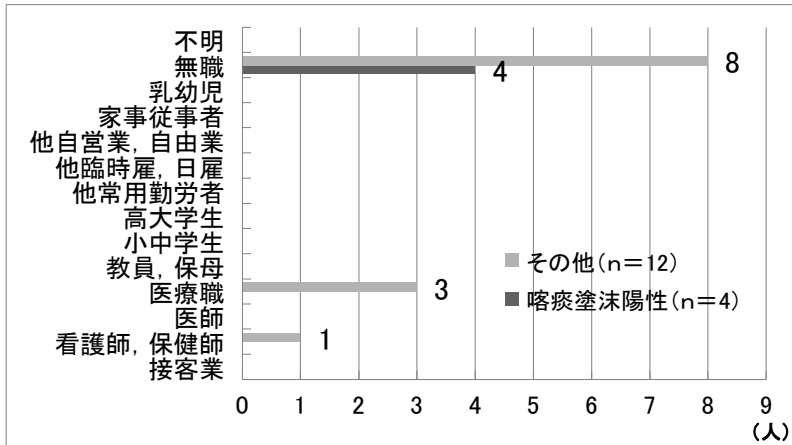
	R2	R3	R4	R5	R6
総数	16	9	12	14	11
受診の遅れ	2	2	1	1	0
診断の遅れ	1	3	7	4	3
発見の遅れ	0	2	3	1	0



(表6より) 有症状の肺結核患者11人のうち、発病から初診までの期間が2か月以上(受診の遅れ)の者は0人(0.0%)、初診から診断までの期間が1か月以上(診断の遅れ)の者は3人(27.2%)、発病から診断までの期間が3か月以上(発見の遅れ)の者は0人(0.0%)となっており、R6年については受診、発見の遅れはなかったが、診断の遅れが全国より高い値となっている。
 全国との比較では、初診から診断までの期間が1か月以上(診断の遅れ)の者のみ全国より高い割合となっている。

※参考:R6 全国 受診の遅れ 20.7% 診断の遅れ 22.4% 発見の遅れ 21.8%

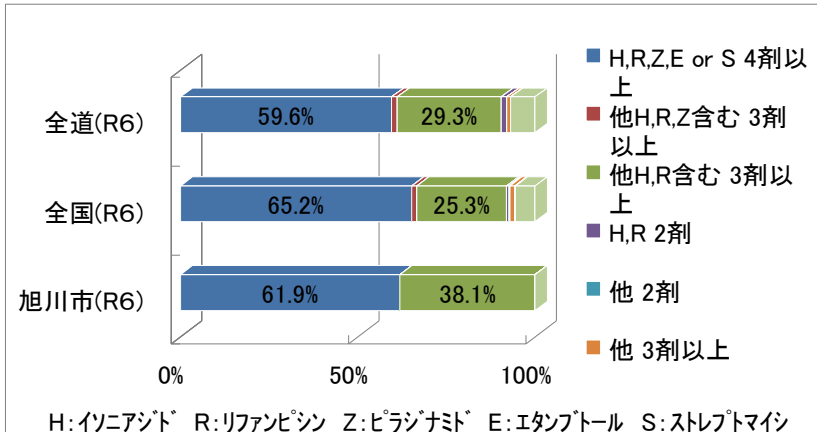
5 新登録肺結核患者 登録時職業(図5)



(図5より)

新登録肺結核患者16人の登録時職業は無職が12人(75.0%)と最も多かった。また、無職以外の4人の患者は全て医療・介護職であり、うち1人は外国出生者であった。

6 新登録結核患者化療内容(図6)



(図6より)

新登録結核患者21人の化療内容はH,R,Z,E or S4剤以上使用していた者が13人(61.9%)、H,R,Z含む3剤以上使用していた者が8人(38.1%)であった。
 全国と比べると、4剤以上治療の者の割合はやや低かったが、全道より高い割合であった。

7 薬剤感受性試験結果(表7)

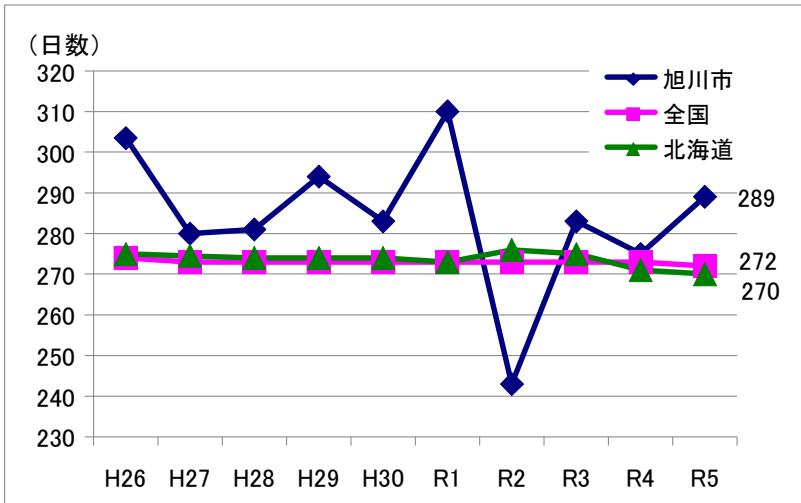
	人数(人)	割合
結核菌培養陽性患者	11	
薬剤感受性試験実施者	11	100.0%
INH耐性	0	0.0%
RFP耐性	0	0.0%
SM耐性	0	0.0%
EB耐性	1	9.1%
PZA耐性	0	0.0%
HRSE全てに感受性	10	90.9%
薬剤感受性未実施者	0	0.0%



(表7より)

新登録肺結核菌培養陽性患者11人のうち全員(100%)が薬剤感受性試験を実施し、1人からEB耐性が見つかった。

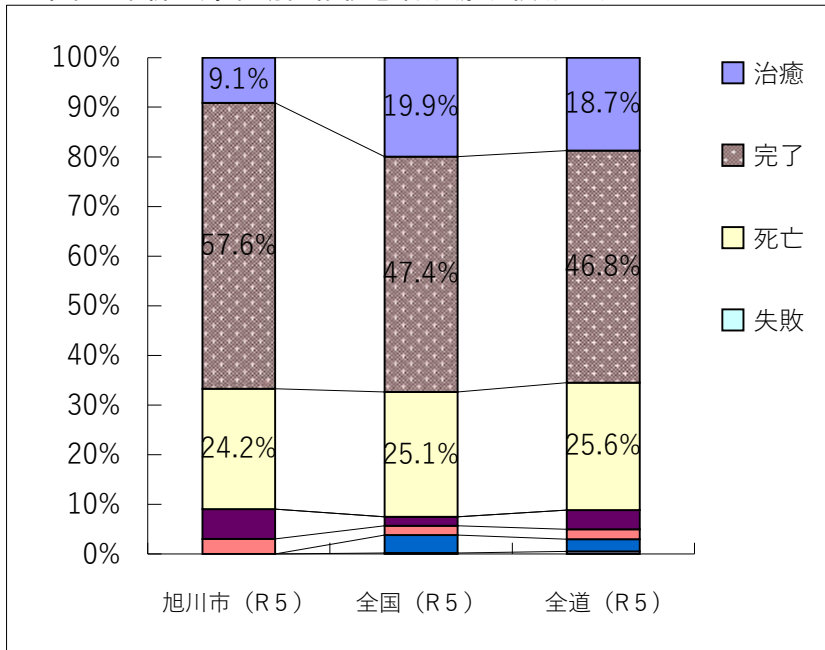
8 令和5年全結核治療完遂継続者治療期間中央値(図7)



(図7より)

令和5年新登録患者の全結核治療完遂継続者治療期間中央値は289日であった。R5年は全国、全道に比べ治療期間が長期となっている。

9 令和5年新登録活動性結核患者治療成績(図8)



(図8より)

令和5年新登録活動性結核患者33人の治療成績において、治癒は3人(9.1%)、完了は19人(57.6%)で、治療成功率は66.7%であった。

また、死亡が8人(24.2%)、脱落2人(6.1%)、転出が1人(3.0%)であった。脱落の理由はいずれもINHの副作用による肝機能障害によるものであった。

全国、全道と比較し、治癒患者の割合が低いことから、治療最終月の菌検査の実施について依頼していく必要がある。